



**小谷** マルコ会長は、先ほど南原の集落に広がる水田を熱心にカメラに収めていました。山間部の厳しい条件で築かれた「南原穴堰」は世界的に見ていかがですか。

**マルコ** 「南原穴堰」の認定・登録は保全も含め、日本人が持つ素晴らしい特性が評価されたと思っています。私は子どもたちへの教育が重要と考えます。日本では、学校の授業後には必ずみんなで掃除をしてから帰り、サッカーの試合の後には、ごみを持ち帰ります。そのように環境を守ることを習慣化してきた日本人の特性が根底にあり、農家自身の手で「南原穴堰」の保全が行われている点が世界かんがい施設遺

産の認定・登録へとつながったと思います。

**未来を拓く**

**小谷** 「南原穴堰」の保全・活用について、今後の展望をどのように考えていますか。

**市長** 今後は、ツーリズムを活用した展開を考えています。日本のみならず世界中から多くの人来ていただきたいと思っています。ぜひマルコ会長にアドバイスをいただきたいです。

**マルコ** 日本の観光地といえ

ば京都や奈良が有名ですが、海外の観光客は定番コースから少し外れた場所を求めています。大崎市には美しい景色や温泉、歴史的な場所とい

た多くの資源があり、他の観光地とはひと味違った独自の魅力を持っています。私もイタリアの観光当局を通じて、観光的な観点だけではなく、さまざまな視点から大崎市を紹介したいと思っています。

**市長** 世界かんがい施設遺産に認定・登録されてから、「南原穴堰」は非常に注目されるようになりました。一方で、農業従事者の減少や高齢化が進み、施設を管理し保全を続けることが難しくなっています。

**マルコ** 農業に関する課題は日本だけではなく、世界的な課題かもしれません。実はイタリアも同じ課題を抱えています。高齢化や若手農業者の

減少による後継者不足に直面しています。そのため、イタリア政府はさまざまな支援をしています。日本でも若手農業者は農業に対する情熱や明確なビジョンを持っています。今後は国を超えて互いに協力できれば素晴らしいと考えます。

**大崎市民へのメッセージ**

**市長** ありがとうございます。最後にお二人から大崎市民の皆さんへメッセージをお願いします。

**マルコ** 市長をはじめ、地元

の皆さんや関係者の皆さんが何事にも熱意を持って活動していることにとても感銘を受けています。

**小谷** 大崎市の米の生産の歴史は、「巧みな水管理」と深く関係し、まさにかんがいの歴史です。まずは、大崎市民の皆さんが、田んぼと水路の歴史や価値を知ることが大事です。ぜひ一緒に南原穴堰を訪れ、世界農業遺産「大崎耕土」を体験しましょう。

# 令和8年 新春鼎談



おおさき宝大使  
小谷 あゆみ

ICID(国際かんがい排水委員会)会長  
マルコ・アルシエリ

大崎市長  
伊藤 康志

場所:鳴子ホテル

令和6年9月3日、「世界かんがい施設遺産」に認定・登録された「南原穴堰」を現地視察しながら、ICID(国際かんがい排水委員会)会長のマルコ・アルシエリ氏とおおさき宝大使の小谷 あゆみ氏、伊藤市長が大崎市の魅力について語り合いました。

## おもてなしの心

**市長** あけましておめでとうございます。

さて、マルコ会長と小谷さん

に大崎市にお越しいただき

ましたが、大崎市の感想はいかがですか。

**マルコ** 大崎市のおもてなし

や親切さといった貴重な体験

ができるホスピタリティの高

さに感動しています。

**小谷** 何より感動したのは渡

り鳥たちのねぐら入りです。

夕暮れの空を埋め尽くす10万

羽の鳥たちののはばたきと鳴き

声に圧倒されました。

**市長** マルコ会長の出身地の

イタリアは、豊かな食文化と

特色ある郷土料理がたくさん

あることから「美食の国」と呼

ばれています。大崎市での食

事はいかがでしたか。

酒も飲みしめながらいただき

ました。

**約400年続く「南原穴堰」**

**市長** 200施設ある「世界

かんがい施設遺産」のうち、日

本では56施設が登録されてい

ます。日本の農業として「南原

穴堰」についてどのように思わ

れますか。

**マルコ** 日本は「世界かんが

い施設遺産」の登録に多大な

貢献をしています。その中で

も、「南原穴堰」は特別で、視察

して驚いたことが二つありま

す。

一つが約400年前に手掘

りで隧道を掘削するという困

難な作業を行ったこと、もう一

つはこの施設が今もなお地域

の食料の安定的な供給に貢献

しているということです。

残念なことに世界の他の地

域では、水資源の搾取が進ん

でおり、持続可能について考

えられていないのが実情です

が、「南原穴堰」は地域の自然

と調和し、持続可能な形で現

代に継承されている点が素晴

らしいと思います。これは未

来に向けた非常に重要なメッ

セージです。